

# 武蔵野



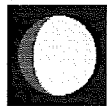
武蔵野支局 〒180-0006  
 武蔵野市中町1の13の1 3F  
 電話 0422(51)3131  
 FAX 0422(51)3133  
 musasino@yomiuri.com  
 都内版編集室  
 電話03(3217)1465・1466  
 江東支局 電話03(3631)6116  
 立川支局 電話042(523)4477  
 ホームページ  
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は  
**0120-4343-81**

【広告】読売Palette  
 03(6272)9027  
 【折込チラシ】 0120-03-4343  
 【読売旅行】 03(5550)0666

4月14日(木曜日)  
 旧 3月14日<仏滅>

通日 104  
 月齢 12.9  
 (正午)

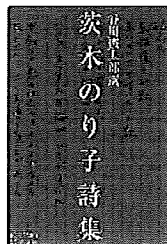


東京標準  
 満潮 3.52  
 15.43  
 干潮 9.58  
 22.00  
 (中潮)

あすの暦

## 「茨木のり子詩集」(谷川俊太郎選)

谷川俊太郎が選んだ詩集です。「鎮魂歌」に収録された長編叙事詩「りゅうりゃんれんの物語」から武蔵野で詠まれた「青梅街道」や「冷えたビール」などの生活詩まで、内容は多岐にわたります。紐解くと、未来に向かって今を生きている私たちにとって必要な歴史が、わかりやすい言葉で紡がれています。



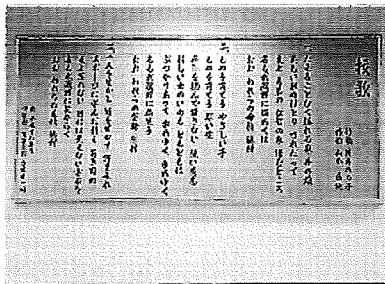
(岩波文庫)

# 生きる女性へ強い歌詞

## 文人の武蔵野

1874年、招魂社(のちの靖国神社)を訪れた明治天皇(1852〜1912年)は、「我國の為をつくせる人々の名もむさし野にとむる玉かき」と詠みます。解釈は様々ですが、ここでは歌意を「欧米列強に対抗できる」近代国家建設のために尽力してきた人々の苗字と名前を(玉垣で囲われた)この武蔵野にとどめて御霊を哀悼する、と受けとっておきます。

## 茨木のり子 ④



藤村女子中学・高校の校舎に掲げられている校歌

1967年、詩集「鎮魂歌」で注目を集めた頃の茨木のり子(1926〜2006年)は、吉祥寺にある藤村女子中学・高等学校の校歌の作詞を依頼され、「ものを育てるやさしい手/ものを育てる深い愛/平和を掴んで離さない」と詠みます。

強い意志/新しい女のいのち ともどもに/ぶつかりあって 求めゆく 求めゆく /名も武蔵野に風薫る」(2番)と詠みます。

ともに「名もむさし野(武蔵野)に」というフレーズがあります。内容は対照的です。崇拜すべき祖先たちの「名」(平民化された近代の「国民」がもつようになった「名」)をも(苗字とともに)刻もうという意味をもち男性の死者を主な対象としている前者に対して、後者の「名」は女性の生者のものであり「平和を掴んで離さない 強い意志」と「ものを育てるやさしい手」の持ち主のものです。前者の「むさし野」は囲いにより守護されていますが、後者の「武蔵野」は風の吹くまま広がります。

「風薫る」の後には「おおわれらの姿勢 藤村」と続くのですが、のり子は校名を入れたくなかったそうです。またこの2番の歌詞だけ字数が多く、平和を掴みとるための闘争心が溢れているように思われます。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)